

令和5年度第2回諫早市在宅医療・介護連携推進会議（要旨）

- 1 期 日 令和6年1月25日（木）午後7時～午後8時40分
- 2 場 所 健康福祉センター2階 第一研修室

【報告】

（1）ACP普及啓発の実績について

①令和5年度ACPの日について

「人生会議の日（11月30日）」に合わせて今年度初めて行った取り組みについて、報告した。

- ・諫早駅での普及啓発動画の放映
- ・ACPの概要や、実体験についての記事のパネル展示
- ・市内図書館の特設コーナーの設置

②令和5年度諫早市ACP市民講演会について

令和5年12月16日、長崎市の奥平外科医院院長・奥平定之氏を講師として、市民を対象としたACPについての講演会を開催した。講師が地域のかかりつけ医として携わってきた在宅医療の事例紹介や、市が作成したACPについての冊子を使った記入実践などを行った。講演後のアンケートでは「講演までACPを知らなかった」という回答が約66%を占めたが、同時に約92%の方が「ACPが必要だと思う」と回答した。

【意見など】 講演会は今後定期的に行っていく予定はあるのか

→令和4年度が多良見地区、今年度が中央地区で開催しているので、また新たな地区で継続して開催出来たら効果的だと考えている。

（2）ACPについての冊子を活用した普及啓発について

令和5年度第1回推進会議での意見・提案に関する報告を行った。

- ・市内24か所の葬祭事業者と、市営の火葬場などに冊子を送付済
 - ・介護保険証の送付時に冊子の同封が可能か、介護保険課と調整中
- 冊子本体の改善案、薬局での動画放映についても検討していく。

【意見など】 なし

【議事】

（1）在宅医療・介護連携における諫早市の現状について

①市からの報告

諫早市の在宅医療・介護連携推進事業の現状報告と、厚生労働省が示す「4つの場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）」

を基に、委員が携わる現場での困難事例や課題等について情報共有を依頼した。

【意見など】

- ・退院後施設へ入所するとストレスがかかるので、予めお試しのような、病院でいうバックベッドのように施設を利用できるような仕組みがあれば良い。
- ・ケアマネがショートステイをバックベッドのように調整している例もあるのでは。
- ・自宅や施設での生活が難しい医療依存度の高い方も利用できる、看護小規模多機能型居宅介護が諫早市にもできれば良い。

② 県央保健所からの報告

今年度保健所が行った高齢者施設の実態調査および、県と保健所で行った在宅医療の実態調査から、諫早市及び県央圏域のデータを抽出して説明した。

- ・医療と介護の両方のニーズへ対応できる地域の受け皿づくりが必要。
- ・今後10年以上、在宅医療を実施すると回答した医療機関が24.4%と少ない状況であることから、在宅医療に取り組む医療機関の拡充を図るなど、安定的な在宅医療提供体制の構築が必要。
- ・居所変更の理由に医療ケアの必要性が多く上がったことから、高齢者施設と在宅医療機関や訪問看護ステーションとの連携強化が必要。
- ・「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に沿った医療・介護関係者へのACPの普及啓発が必要

【意見など】 なし

③ 諫早市在宅医療・介護連携支援センターからの報告

平成30年の開設時から令和5年度までにセンターに寄せられた相談から、「4つの場面」に分類して特徴的な事例を報告した。

- ・透析患者の通院に係る交通手段の確保
→施設入居時の障壁、通院に係る交通費の負担
- ・胃ろう、吸引など医療的ケアが必要な方の支援（在宅困難）
→医療支援が充実している施設の不足、訪問看護との連携の必要性

【意見など】 なし

(2) 在宅医療・介護連携の現場に関する意見交換について

- ・主な意見については別紙のとおり
→集約した情報・意見を基に、市で課題を整理し、共有する。